

『内藤文庫目録 KUL-bijou』について

布川 香織

東洋史学の泰斗である内藤湖南（虎次郎）とその長子である伯健（乾吉）の旧蔵書が、湖南が晩年を過ごした恭仁山荘とともに関西大学に収められたのは、昭和59年10月のことである。その後、内藤文庫として整理が続けられ、これまでに『内藤文庫古刊古鈔目録』（昭和61年刊）、『内藤文庫リスト』No.1～5（平成1～8年刊）を刊行してきた。

内藤文庫は約3万3千冊の資料を有し、その内容は漢籍にとどまらず、国書、朝鮮書のほか、満州や蒙古など、中国東北部や西域の文献まで含んでいる。また、図書資料以外にも、拓本、考古学資料、掛軸、書簡など多彩な資料があり、まさに湖南の関心領域と研究分野の広さ、深さを示して余りある資料群といえよう。

そしてこのたび、本学図書館として初めて、CD-ROM版目録の作成に取り組むこととなり、『内藤文庫目録 KUL-bijou』が刊行された。

CD-ROMで目録を刊行するのは、①昨今の高度情報化社会に対応して、新刊図書であればMARCのみの整理が一般的となり、漢籍といえども、その流れに逆らうことは難しくなっていること、また、②漢籍をデータ化すれば、これまで以上の利用が可能になるのではないかと考えたこと、の二点による。

なお、KUL-bijouとは、関西大学図書館がこれから刊行していく電子媒体による目録の総称である。Kansai University Libraryの頭文字KUL（カル）と、フランス語で、「宝石」「珠玉」「念入りの細工品」という意味のbijouを合わせた造語で、これらの目録が、利用者にとって宝となるよう念願して名づけられた。

1 CD-ROM版目録の画面構成

CD-ROMは、主として「検索・一覧」「凡例」「文庫紹介」「画像紹介」「操作方法」の各画面から構成されている。

(1) 検索・一覧画面

目録情報を電子化したCD-ROM版目録の最も得意とするところは、その多様な検索である。これまでの冊子目録であれば、そのほとんどが書名と著者

名の始まりからしか検索することができなかったが、CD-ROM版では、書名、叢書名、内容書名、著者名、出版者名等、これまで以上に多くの項目から検索することができる。また、前方一致だけでなく、中間一致、完全一致でも検索できる。（図1）



図1 検索・一覧画面

さらに、今回の内藤文庫目録では、注記の情報からも検索を可能にした。それは、内藤文庫資料には、湖南の書き入れや蔵書印などが多く入っており、これらを網羅的に検索できれば、よりいっそう湖南研究がすすむのではないかと考えたからである。

注記を検索するキーワードには、「湖南書入」「印記」のほか、「鈔本」「拓本」「満文」「諺文」「卷子本」「折本」や、湖南の蔵書印の印文である「炳卿審定善本」「炳卿珍藏旧槧古鈔之記」「炳卿監蔵」などがあり、プルダウンメニュー（特定の場所をクリックすると表示される、複数の選択項目のリスト）から選んで入力できるようになっている。もちろんこれらのキーワード以外でも、手入力して検索することが可能である。

検索結果は、同画面の下半分に表示され、さらに詳細な情報を見たい場合には、ドラッグ（マウスボタンを押したままマウスを移動させる操作）で資料を指定してから「詳細情報」ボタンをクリックすると、「詳細情報」画面に移ることができる。（図2）

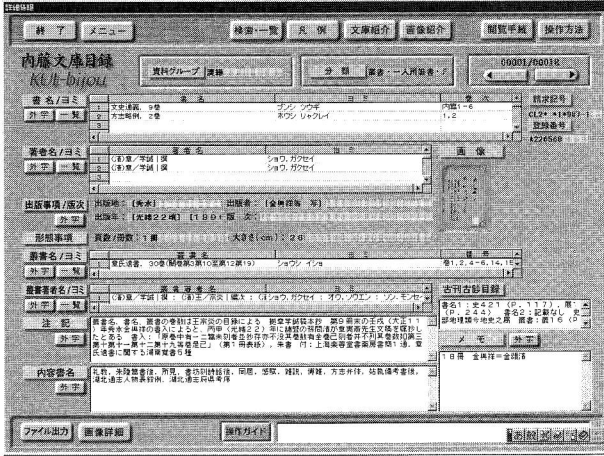


図2 詳細情報画面

(2) 凡例画面

この画面では、内藤文庫資料のデータをどのように入力したか、その入力の規則を見ることができる。これまでの冊子目録では、目録記述は基本的に、漢籍や和古書の目録規則に基づいているので、凡例として多くを挙げていなかった。しかし、今回はCD-ROM目録であるので、まだ統一されたフォーマットが存在しない。そこで今後の参考となるよう、データ入力の方法を詳細に紹介した。(図3)



図3 凡例画面

(3) 文庫紹介

内藤湖南と伯健の人物紹介および本学の内藤文庫の説明、また、本学以外に内藤湖南等の旧蔵書を所蔵している機関を紹介した。

この画面からは、文庫資料を利用するための手続きについても説明している。(図4)

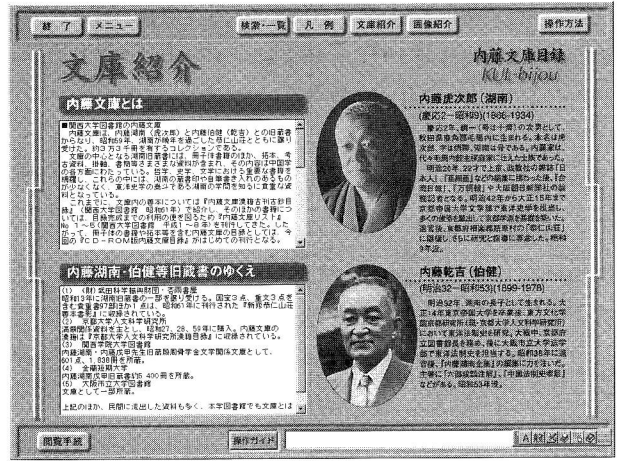


図4 文庫紹介画面

(4) 画像紹介画面

CD-ROMの特性を生かし、内藤文庫資料のなかから貴重な資料を画像で紹介している。

漢籍、国書、外国書、そのほか、の資料別に、それぞれの表紙や巻頭、巻末などをフルカラーで見ることができる。これにより各資料を文字情報だけの場合より、全体的にイメージしやすいのではないかと思います。また内藤文庫資料の内容に興味のある人には、内藤文庫の入門編としてこの画面を利用することもできる。(図5)



図5 画像紹介画面

(5) 操作方法

CD-ROMを作るにあたっては、初心者にもわかりやすいものにしようと心がけた。

各画面の下方には操作ガイドをつけ、画面上のさまざまなボタンの説明を表示させたり、なるべく専門用語は使わないように配慮した。

また、さらに詳細なガイドとして、各画面の操作方法を説明する操作方法画面を用意した。

例えば、操作方法のなかの検索・一覧画面「①検索条件」の部分をクリックすると、その項目の操作説明が表示され、検索する項目名の選び方や、検索語の入力のしかたなどが、画面上で確認できる。(図6)



図6 操作方法(検索・一覧画面)

2 分類について

漢籍については、四部分類(『京都大学人文科学研究所漢籍分類目録 昭和38年版』に準拠)し、国書とそのほかの外国書については、日本十進分類法8版(NDC8版)を採用した。

ただし、漢籍の新学部書籍については、日本十進分類法8版で分類している。

3 著録について

著録した項目名は以下の通りである。

- ×①和洋区分(本学図書館での和書、洋書の別)
- ②請求記号
- ③書名、書名ヨミ
- ④巻次
- ⑤著者名、著者名ヨミ
- ⑥版次
- ⑦出版事項(出版地、出版者、×出版者ヨミ、出版年)
- ⑧叢書名、叢書名ヨミ
- ⑨叢書番号
- ⑩叢書著者名、叢書著者名ヨミ
- ⑪形態事項(頁数または冊数、大きさ)
- ⑫注記
- ⑬内容書名
- ⑭分類

- ⑮区分(漢籍、国書、そのほかの外国書、の別)
- ×⑯言語区分(本文の言語)
- ⑰登録番号
- ⑱古刊古鈔目(既刊の『内藤文庫漢籍古刊古鈔目録』に記載されている資料番号と頁数)
- △⑲メモ(全体の冊数や、書誌事項に盛り込めなかった内容等)

(データ例)

和洋区分 : 0
 請求記号 1 : L21
 請求記号 2 :
 請求記号 3 : 1
 請求記号 4 : 3-1-1
 書名 1 : 周易, 3巻
 書名ヨミ 1 : シュウエキ
 巻次 :
 著者 1 : (清) 秦 / ◆D40850◆ | 訂正
 著者ヨミ 1 : シン, ボク
 版次 :
 出版地 : [出版地不明]
 出版者 : 観成堂蔵板
 出版者ヨミ : カンセイドウ
 出版年 : [出版年不明]
 叢書名 : 九経
 叢書名ヨミ : キュウキョウ
 叢書番号 :
 頁数/冊数 : 1冊
 大きさ : 匡郭14.3×9.9
 注記 : 叢書名は封面による
 分類 : A0100
 区分 : 1
 言語区分 : CHI
 登録番号 : A221891
 古刊古鈔目 : 経4 (P. 5)
 備考 : 24冊4帙

ただし、詳細情報画面では、上記項目名のうち、×をつけたものは表示していない。また△をつけたものは、データでは備考として著録している。

×をつけたものを含む全データについては、検索・一覧画面と詳細情報画面にある「ファイル出力」ボタンにより出力することができる。

4 文字について

従来の冊子目録では、漢籍に特有のさまざまな字体は、原則的に繁体字で統一されており、異体字については活字を作ることなどで対処することができた。しかし、CD-ROM 版目録では、データ化する際に文字コードの有無が大きな問題となる。文字コードがないとその文字は入力できず、したがって、画面に表示することができないからである。

また、たとえ文字コードがあったとしても、どの字体を入力するかという「文字統一」の問題もある。

これらの問題を解決するために、本目録では、以下の通り対応した。

- (1) 大多数の利用者は日本人であると考え、その検索の便を考慮して、常用漢字を用いた。
- (2) 常用漢字がない文字については、なるべく多くの文字を入力するために、異体字や別字であっても、それらが同じ字であると判断できる場合は、文字コードのある字体を入力した。
- (3) 文字コードのある字体がない場合には、諸橋轍次著『大漢和辞典』（大修館書店刊 昭和30-35年初版）の検字番号を「◆D99999◆」（99999は検字番号）の形式で入力した。
- (4) 『大漢和辞典』にも記載されていない文字については、「◆X000001◆」の形式で入力した。

上記(3)の『大漢和辞典』の検字番号で表された文字については、文字鏡研究会編集『今昔文字鏡』（エーアイ・ネット開発・製作 紀伊國屋書店発行 1999年）に収録されている『大漢和辞典』の文字を画像で取り込み、もとの文字を確認できるようにした。（図7）



図7 外字表示画面

また、同(4)の『大漢和辞典』にも載っていない文字については、該当文字を手書きし、それを画像として取り込んで、もとの字を確認できるようにした。

さらに、これらの外字を含んだデータを検索する場合は、『大漢和辞典』の検字番号、または読みで該当する外字を探し、入力することができる。

(図8)

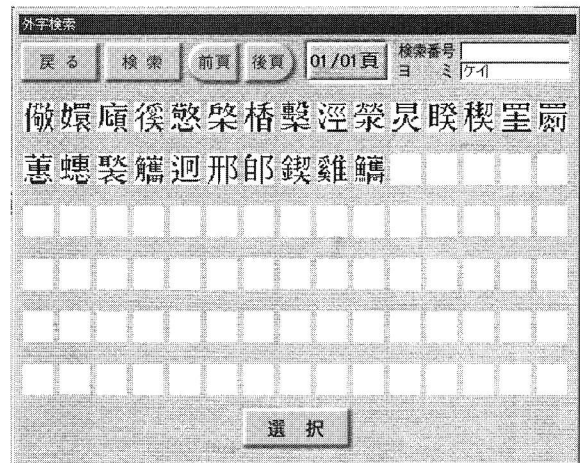


図8 外字検索画面

5 終わりに

技術革新がめざましい今日においても、漢籍目録といえば冊子目録しか存在しなかったのは、漢籍のデータ化がいかに困難であるかを物語るものである。

今回の内藤文庫目録は、おそらく漢籍をデータ化した本邦初のCD-ROMである。したがって、問題点は数多く残されており、この目録での方法が最良の方法であるとは考えていない。むしろ、漢籍を含むCD-ROM版目録としては、まだ試作段階と心得ており、今後多くの人びとに利用していただき、その意見を参考にし、改善を重ねていくことで完成に近づけていきたい。

今この瞬間にも、技術はどんどん進化している。これらの技術を積極的に取り入れ、またこちらからも要望を提示していけば、現在不可能なこともきっと可能にできるだろう。この目録が、内藤文庫の目録としてのみならず、書誌研究全般に少しでも貢献し、漢籍のデータ化やこの種の目録のあるべき姿といった問題についても、これまで以上に多くの人びとに関心をもってもらうきっかけとなれば、これほどうれしいことはない。

(ふかわ かおり 学術資料課)